Shimada 2019 8 No.254
City Public Relations 広報しまだ

島田人 Story

Shimadajin File #93

書道を通して、生まれ育った古里に恩返しをしたい ――

60年以上にわたり、金谷猪土居で書道教室を開いている石川さん。現在87歳で、有名書道誌に作品が掲載されるなど、長年に渡る経験を基に、書道の素晴らしさを多くの人に伝えています。

【地元に育てられた恩返し】

65年程前、当時22歳くらいだった石川さんは、中学生の妹の書を見て、自分も上手に字を書きたいと思うようになったと話します。独学で字を書き続け、程なくして段位を取得すると、本格的に書家としての活動を始めました。

「幼い頃からずっと、地元の皆さんにお世話になっていたので、恩返しをしたかったんです。自分にできることは何かを考えた末、子どもたちに書道を教えることを思い付きました。自宅の一室で教室を開いてから、今まで400人以上の生徒が来てくれています。この歳まで続けられたのは、周りの支えがあってこそ。書道教室が人生のハリになっています。教室では、教科書のほか、書道を長く続ける上で、そのイロハを学べる字を、私が選んで練習しています。子どもたちに配る手本は、生き生きとした字を書いてほしいという思いから、全て手書きで用意します。一枚一枚、丁寧に字を書いて生徒に渡すことで、自分自身も一緒に勉強することができます」

書家(雅号:景碩(けいせき))

石川利夫(いしかわとしお)さん(金谷猪土居)

【半紙の裏を見る理由】

手書きの手本に、大きなこだわりを持つ石川さん。そこには、書家として自身の成長を促すことに加え、もう一つ大きな理由がありました。

「手書きの書は、当たり前ですが半紙の裏に写ります。裏を見れば、墨の濃淡がはっきりと分かり、そこから筆の運びや圧力などを学ぶことができるのです。生徒に書き方を教えてと頼まれたら『まずは裏返してごらん』と答えます。そうすることで、教科書では決して知ることのできない、生きた字を書き上げる大切さを伝えています」

【書道が教えてくれる姿勢】

書道には「姿勢」が大切だと話す石川さん。字を奇麗に書くことだけが全てではなく、書道と誠実に向き合うことで、人として大きく成長できると話します。

「ここで言う『姿勢』には2つの意味があります。それは、半紙に向かって書くときの正しい姿勢と、挨拶などの学びに向かう誠実な姿勢です。姿勢を身に付け、人として豊かになることで、字も豊かになっていくと私は思うのです。古里の生徒から、書道を始めて良かったと言ってもらえるのが、何よりの喜びです。今年は、地元自治会の催しで書道パフォーマンスを披露させていただき、地域の人たちとのつながりを一層実感できました」

長年にわたり培ってきた書道への志を、一人でも多くの人たちに伝えるため、石川さんは今日も筆を執ります。

生徒の作品を添削する石川さん(奥)

発行/編集 島田市市長戦略部広報情報課
〒427-8501 静岡県島田市中央町1番の1
☎0547-36-7118
「広報しまだ」は、再生紙を使用しています。
http://www.city.shimada.shizuoka.jp